

平成27年度 水城高等学校自己評価表

目指す 学校像	○学力の向上を図り困難な社会に通用できる人材育成を目指す。
	○3点確保により、学業と部活動の両立を目指し、活力ある学校を目指す。
	○各自の個性・能力をさまざまな場で表現できる人材の育成を目指す。
	○健全な道徳観を有し、友愛の情を育み他人と協調し、社会に貢献できる人材を育成する。

昨年度の成果と課題	本年度の重点目標	重点目標	達成状況
<p>・京都大学・大阪大学などの難関大学や筑波大学医学類など、国公立大学・大学校合わせて180名の合格者を出した。</p> <p>・私立大学の合格者は、早稲田・慶應義塾大学をはじめ1039名となった。</p> <p>・今年度は昨年を越える国公立大学合格者を出すことを目指す。</p> <p>・部活動の一層の活性化を図り、文武両道を目指す。</p>	・授業の質の向上	・授業アンケートの結果を指導に生かし、授業の改善・工夫に努める。	4
		・各教員が教材研究を十分に行い、全コースで質の高い授業を展開できることを実現する。	4
	・きめ細かい進路指導 ・国公立・難関私立大学への多数の合格	・各種講演会や個別面談・LHR等をおして生徒の適正に応じたきめ細かな進路指導を行う。	4
		・模擬試験や定期試験の結果分析をし、日々の学習活動やゼミ活動に反映し学力の増進を図る。	4
	<p>・生徒が落ち着いて学習でき、安心して学校生活を送れるような環境を整える努力をする。</p>	・中途退学や転学の防止を目指して努力する。	5
		・通学路での交通安全指導を行い、公共の場でのマナーを身につけさせる。	4
		・自転車事故等をなくすために、交通ルール遵守を心がけさせる。	4
・募集広報活動の推進	・本学の教育理念に共鳴する入学者を確保するために、組織的・計画的に広報活動をする。	5	
・特別活動の活性化	<p>・学業に励むだけでなく、部活動など課外活動に多くの生徒が参加し、充実した高校生活を送れるよう支援する。</p> <p>・清掃など奉仕活動を通して公共心を養うと共に、環境問題を考えるきっかけを与える。</p> <p>・生徒会活動や委員会活動を生徒が自主的に運営できるように働きかける。</p>	<p>・陸上競技部・空手道部・アーチェリー部・ゴルフ部・弓道部・女子バレーボール部が全国大会に出場した。</p> <p>・男子駅伝部は7年連続、女子駅伝部は2回目の全国高校駅伝大会に出場した。</p> <p>・写真部は、全国スポーツ写真コンクールで全国優秀賞を受賞した。</p> <p>・生徒会は、水戸地区の他校の生徒会と連携して懇談会やマナーアップ活動を行い、活動を広げた。</p>	

評価基準 5:十分達成できている 4:達成できている 3:概ね達成できている 2:不十分である 1:達成できていない

1. 教科

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	総合評価	次年度への課題
国語	・コースと連携し、生徒の基礎学力の向上を図る。	・コースの独自性、特色を生かした朝の小テスト・ゼミ学習と連携し、授業時間だけではない日常的な活動の時間を確保することにより、国語に親しみ、社会生活を送る上で十分な国語能力を身に付けさせる。	4	4	コースの独自性や特色を生かすことはできたと思うのだが、同学年他コースとの連携をより充実させることが必要だと考えられる。
	・生徒に家庭学習の習慣を確立させる。	・年度当初に集中して授業の受け方や予習復習に関する姿勢について指導する。特に長期休業中家庭学習用テキストを有効に活用し、学習習慣の定着を図る。	4		授業理解や自主学習を効率的にするための指導を概ねできたと考えられるが、特に予習を必要とする古文や漢文に関して、生徒間で取り組みの差が出ないように指導を工夫する必要がある。
	・生徒に言語活動を通じた情報処理能力を養わせる。	・授業への関わりの中で多くの文章や問題に触れ、読解についてはもとより、特に自身の意見を述べる際に口頭や記述における表現を通じて、その向上を図る。	4		意見を述べたり記述したりする際に必要となる知識の修得を充実させるような指導の展開がさらに必要である。
	・生徒の理解を深めるための授業スキルの向上を図る。	・公開授業・授業見学や教員間の意見交換を活発に行い、教材研究を省みることで、生徒にあった授業のあり方を研究する。また、新採教員へのフォロー、助言を教科全体として行うことで、双方のスキルアップにつなげる。	4		教員間での意見交換と比較すると、授業見学などによる研究がまだ少ない。次年度はそこに力を入れたい。

地歴 公民	全ての科目で、自ら学び発見する力を養う。	資料や図表などの資料を授業内で積極的に活用し、また生徒に発言・発表させる機会を多く設けることで、事象を読み取る力とその原因を考える力、さらに表現する力をともに養成する。	4	4	資料の有効活用については今後ともすべての科目で実践していくことが求められる。科目内の各教員が連携をとり、適切な対応を考えていくことを継続したい。
	入試に対応できる知識の習得と定着を図る。	ワークや小テストなどを用いて反復学習を実践するとともに、テストや模擬試験の結果を分析して弱点の補強を随時図っていく。	3		知識の習得については各教科ともそれぞれ工夫されていたが、入試問題や模擬試験の分析などに個人的にはなく教科で取り組むことなどを次年度以降考慮したい。
	現代社会の様々な事象に興味関心を持ち、時代に即応できる人材の育成を図る。	時事的話題にことあるごとに触れることで現代社会が常に変容しつつあることを理解させるとともに、その背景等を考察させることで本質を見抜く力を養う。	4		次年度は18歳選挙権初年度となる。現代社会に目を向けさせることは時代の要請ともいえるので重要だが、様々な論点について複数の見解をきちんと提示することで公職選挙法に抵触しないことが求められる。
	異文化尊重の精神と愛郷心を涵養する。	国土や歴史に理解を深めさせることで愛郷心を涵養するとともに、成り立ちの違う異文化の存在を認識させるとともに、異文化への興味と相互理解の精神を惹起させる。	4		生徒それぞれの反応はまちまちであるが、海外修学旅行が実施されていることもあり、異文化への興味関心は一定以上の水準に達していると感じられる。今後とも様々な機会を捉えて生徒に話題を提供できるよう各自の研鑽が求められる。

数学	・生徒の基礎学力向上のために有効な実践を常に考え、学力向上を図る。	・参考書や傍用問題集を活用し、授業中や家庭にて問題を数多く解かせる。	4	4	教科書傍用問題集をもっと積極的に利用することを考えたいと思う。ただ、コース・クラスによっては、習熟度に差があるため、傍用の問題集のみではなく、プリントを利用することを含め、担当教員により柔軟に変更していくなど生徒の習熟に対応していくことを考えていきたい。		
		・演習させるときは、机間巡視を行い生徒が質問しやすい雰囲気を作る。	4				
		・コース・レベルに合わせて、柔軟に問題レベルを変える。	4			授業中に用いる教材については、それぞれの担当者により、問題の選定から柔軟におこなわれている。ただ、定期考査のからみから、統一の教材を使用する必要が生じるため、コース内における定期考査のレベル設定について、教員間の共通認識をさらに深めていきたい。	
		・模擬試験にも対応できるよう、生徒の学力層別に目標を設定し、課題を課して取り組ませる。	3			授業中に扱うべき内容が、かなり増えているため、発展的な問題を扱うことが、難しくなっている。ゼミの積極的な利用を希望しているが、全員が取っているわけではないことや担当者の問題もあり、更なる共通理解を必要としている。	
	・自主的な学習態度を身につけさせ、家庭学習を定着させる。	・授業内にて小テスト等を定期的に行い、生徒の実情を常に把握する。	4			4	生徒により積極的に質問するものもいれば、質問に全く来ない生徒もいるので、放課後の自習等の際に教室に行き、質問を受けるなどする教員もいる。しかし、全員の要求にはこたえられていないので、担任と連携をより一層深め、数学の苦手な生徒などにも対応することをはかっている。宿題の難易度によっては、なかなか生徒がやるには難しいものもあるが、その問題について、しっかりとした解説を行うだけの余裕がないことがある。教材・授業方法等についてさらに改善を目指したい。
		・授業外での個別の質問を促し積極的な学習態度を促す。	4				
		・課題・宿題は回収するなどの方法で必ずチェックし、やって来ない生徒には放課後残してやらせる等の指導をする。	4				
		・模擬試験やテストなど必ず見直しをさせ、理解が不十分な点をチェックさせる。	4				
	・生徒の学力差に応じた指導方法の実践をして、授業内容を工夫する。	・模擬試験や小テストの結果、クラスや分野によって、演習中心の授業にする等の柔軟な対応をする。	4			4	課題やその他教材をwebj上に登録する教員が、増えてきている。教材の難易度等に幅を持たせて生徒が各自が自分分野実力に応じた問題を選択できるようにするなどさらなる工夫を重ねてこのシステムをさらに発展させることを目指していきたい。
		・余力のある生徒や、理解が不十分な生徒に対しては個別にプリントを配布したり、指示をする。	4				
		・より良い授業実践のために、指導方法について、教科教員による校内研修会を実施する。	3				
	・課題・宿題を定期的に出したり、レベルに応じて個別に指示をする。	・授業終了後、その時間に指導した内容の確認のための宿題を数種類出すなど工夫する。	4			4	

評価基準 5:十分達成できている 4:達成できている 3:概ね達成できている 2:不十分である 1:達成できていない

理科	・自然科学に対する関心を高める。	・教科書だけでなく、時事問題との関連付けを行い、生徒の興味・関心を喚起する。	4	4	自然科学、産業分野の情報を収集していく。
		・観察や実験を積極的に取り入れ、イメージを捉えやすくし、探究心も養う。	4		ICTの利用及び実験室の利用頻度をあげる。
	・基礎学力の定着を図る。	・教科書内容を理解・記憶させ、小テストや定期試験を用いてその定着を図る。	4		生徒の理解度の確認等にICTを活用していく。
		・模擬試験や入試問題の演習を通じて、応用力を養う。	4		大学入試問題の傾向を把握していく。

保健 体育	・生涯を通してスポーツに親しめるようにする。	・スポーツ活動を通し、スポーツをした時の爽快感やできた時の達成感を感じられる授業を展開する。 ・様々なスポーツ種目を授業の中で取り入れ、自分の好きなスポーツ種目を見つけれられるようにする。	5	5	引き続き、スポーツを楽しむ習慣を養うとともに、自ら体力向上に努める姿勢を身につけさせたい。
		・保健の授業で習得した知識を自分の生活の中で役立て更に実践できるようにする。	5		現在、将来の身近な話題を取り上げ、身の周りの事象に対処できる知識を身につけさせたい。また、視聴覚教材・実習を有効に活用させたい。
	・用具や施設を大切に使うようにする。	・授業で使用する道具や施設の準備や片づけをきちんとできるようにし、道具や施設に対する愛着を持てるようにする。	4		公共物を大切に使う姿勢をさらに養わせたい。

英語	・「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を総合的に指導することで、これら4技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力を育成していく。	・聞く力：できるだけ多くの英語の音声を開かせ、文字からではなく音声からの英語習得を図る。	4	4	センター試験で9割以上正解したものが多数出ていることから、聞く力の指導の成果が出ていると言える。引き続き音声指導を強化していく。
		・話す力：英文暗唱に力を入れ英語の表現ストックを増やし、それを使って授業中に英語を発する機会を増やす。また、自分の口で自らの考えを発信する活動を行う。	4		英文を覚えることが、聞く力や読む力の向上につながり、成果が見られる。今後も座学ではなく、実技教科としての英語を念頭に活動を多く取り入れた指導を行ってきたい。
		・読む力と書く力：英文を「書いているように読み、読んでいるように書く」ように指導する。 英文の直読・直解が出来る・まとまりのある段落や文章が書けるように指導する。	4		読む力の指導は入試があるために重点的に行っている。書く力に関しては求められる機会が増えているが、そのレベルはさまざまであり、各コースの実情に合わせた指導が必要である。必要な生徒には個別指導を行った。
	・学年・コースと連携し英語学習の基盤を作り、学校全体で生徒が自律的に学習できるような環境を作る。	・語彙の習得：学年やコースに協力をお願いし、朝学習として単語テストを行うなどの活動をする。	5		学年の協力を得て活発に行われた。本校の英語力向上の中心的部分でもあり、また、生徒の学習習慣構築の土台ともなっている。
		・文法の習得：課外ゼミを各コースで開講し、定着・運用のレベルまで行き着くようにする。	4		上位コースにおいて授業の時間が1時間増えたことで、定着・運用のレベルまで指導することができた。
		・動機付け：授業の内容や教材を工夫し、生徒の動機付けを行い、さらに英語検定などの資格取得を目指させることで学習意欲を高める。	5		各教科担当者が積極的に英語教育を推進したことで、英検の受験者数が大きく増加した。1年生で二級を合格する者も増加している。
	・大学入試科目としての英語を研究する。また、それに十分に対応するために教員の更なる指導力の向上を図る。	・実践力の強化：大学入試の出題傾向や出題形式を教員が分析した上で、入試過去問や演習問題を授業内で扱う。	5		各コース、各クラスの担当者が生徒に適した教材や問題を用意することで、入試力の向上に対応している。
		・指導力の強化：校内で研修会を行ったり、教員各自が外部の研修会などに積極的に参加し、指導法の改善を行っていく。	4		各教員がそれぞれ研修会に参加し、指導力の強化に努めた。今後は高大接続を考えた英語教育についての研修会等にも参加していきたい。

評価基準 5:十分達成できている 4:達成できている 3:概ね達成できている 2:不十分である 1:達成できていない

芸術	生涯を通じて芸術を愛好する心情を育てる。	表現する喜びや達成感を味わえるような授業を展開する。	4	4	基礎を学び内容主題を自ら作ることで、自発的に創造的な表現活動へ発展できるような力を育てるように努める。
	感性を高め、創造的な表現能力を伸ばす。	主題(テーマ、意図、用途、構想)を明確にし、素材(材料や用具)の特性を生かした表現が出来るように工夫させる。	4		一人一人が意図・構想を明確に持ち、手順を理解し完成のイメージを持てるようにする。
	鑑賞の能力を伸ばす。	鑑賞をとおして、芸術表現の特質や様式、表現方法などを理解し、その良さを味わえるようにする。	4		古典の様式・表現の方法を理解するとともに、自他の表現の良さや工夫点を、自ら感じ取れるようにする。
		根拠に基づいた個々の考えを持てるようにする。	4		互いに理解を深められるようにする。

家庭	・自分自身が自立することができ、さらに人とともに生きることを身につける。	・家族・子ども・高齢者など共生社会について理解できるようにする。	5	4	・生活者として自立する能力を身につけ、自立の意義を確認し自立して生活する能力を身につける。
	・人との協力の中で豊かな生活と環境をつくる。	・衣食住・経済生活および環境について理解し、実践できるようにする。	4		・異なる世代、人々とかわり共に生きる力を育てる。

情報	アプリケーションソフトの操作方法を習得する。	林間学校や修学旅行に関するレポート作成を通してワープロソフトの操作をできるようにする。	4	4	基本的な操作については身につけているが、今後は実用的な技能も習得させたい。
		エクセルの関数を使って計算式を立てたり、グラフを作成したりして表計算ソフトの操作をできるようにする。	4		生徒自らが試行錯誤しながら計算式を立て、グラフを作成する技能を習得させたい。
		パワーポイントのアニメーションなどを駆使してプレゼンテーションソフトの操作をできるようにする。	4		アニメーションなどを使って、簡潔な文章で相手に伝わりやすいスライドを作成する技能を習得させたい。
	情報発信者としての態度、姿勢を身につける。	発表会を通して正しい情報を発信する能力を身につける。	4		自分の考えを相手に分かりやすく伝える能力を身につけさせるために、プレゼンテーションの発表の仕方を事前に指導する。
	ネットワークを利用する上でのマナーや態度を身につける。	インターネットを利用して、正しい情報収集能力を身につける。	4		インターネット上の情報がすべて正しいとは限らない。正しいことと誤っていることの区別ができるような能力を身につけさせたい。
		レポートに引用先を明記したり、著作権に配慮して要約したりできるようにする。	4		著作権に配慮して、レポートの引用の仕方を事前に徹底して指導する。

評価基準 5:十分達成できている 4:達成できている 3:概ね達成できている 2:不十分である 1:達成できていない

2. 校務分掌

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	総合評価	次年度への課題
教務部	学校備品の取り扱い方について注意を喚起し、消耗品の無駄遣いをなくす。	この数年の印刷機等故障は、機械自体の問題ではなく、取り扱い方が原因で起きるケースが数多く見られる。やはり丁寧な取り扱いが機械の故障を減らし、長く使用できるポイントとなるので、丁寧な使用を徹底させたい。また、ひとりひとりの心がけて消耗品の無駄を減らせるので、注意を喚起したい。	4	4	印刷機が11月に新しい物に交換され、取扱い方も丁寧だったのか、交換してからは故障がほとんど発生しなかった。次年度は、このまま丁寧な取扱いを心がけ、印刷機の故障が大幅に減ることに期待したい。
	教員の授業力向上に努める。入試に関する情報を共有する。	校外の研修会等を利用し、授業力を高める。新しい大学入試の導入もささやかれているので、多くの情報を集め、教員同士で情報を共有し、迅速な対応を心がける。	3		校外の研修会に参加している教員は少数だった。次年度は、新設される学習指導部と連携して、研修の機会を増やすことを考えたい。
	学校行事等を工夫し、校内施設の利用を充実させる。	山野内記念講堂など、施設を有効に利用できる学校行事等の実施方法を各学年・各分掌に呼びかける。	5		学年や部活動で山野内記念講堂を多く活用したと思う。しかし、残念なのは、ロールバックチェアなどの設備機器の故障が多かったことである。

生徒指導部	・規範意識を持って自主的に行動できる生徒を育てる。	・交通ルールやマナーについては、公共の場での責任ある行動について考える良い契機として、また自分の生活を守る大切な規範として捉え、積極的に指導を行う。	4	4	登下校時の駅南大通りの歩行状況についてはおおむね良好であり、外部からの苦情も数件にとどまっている。自転車利用者に対して、自転車登録の徹底や駐輪場利用の仕方などの指導を継続的に行っており、利用状況は落ち着いたものとなっている。一方で、自転車利用中の事故件数は昨年度とほぼ同様であり、交通ルールやマナーの指導については徹底出来なかった部分がある。次年度への課題としたい。また、数は減ったものの、今年度もTwitterやLINE使用時のトラブルが発生している。情報安全教育については、専門家を招いて講演会を開催するなど、引き続き生徒連への安全指導を継続していきたいと考える。
	・生徒会活動、各種委員会活動を活性化させ、生徒達が自主的に課題に取り組む機会を増やし、部活動を含めた学校生活全体の充実を図る。	・生徒会、各種委員会活動等の自主的な活動を活性化させる。野球応援、外部団体の行事への積極的な参加を通して外から学校を見る視点を養い、愛校心を養う。	4		水城祭や野球応援などのイベントでは、自主的に活動する生徒達の姿が目立った。担当者の努力もあり、生徒会は以前よりも活性化している。次年度には水城祭も予定されており、生徒たちの活躍が期待できる。今後は、委員会活動などの日頃の地道な活動を、どのように活発化していくかが課題である。
	・基本的な生活習慣を確立させ、充実した学校生活を送る基礎を作る。	・教職員の共通理解のもと、足並みの揃ったきめ細かい生徒指導体制を確立する。いじめや問題行動には迅速に対応する。	4		頭髪や服装の指導など、ある程度教職員の共通理解のもとで指導ができたと思う。いじめや問題行動に対しては、今後とも迅速な対応に努めていきたい。

進路指導部	生徒の潜在能力を最大限に引き出し、実力を伸ばしていく学習環境の提供	難関大学入試対応型から大学生による基本講座まで、生徒の希望と実情に合わせた多彩なゼミを開講する。成績上位生徒には校外模試(『東大入試実践模試』等)のいわゆる『冠模試』を積極的に受験させ、より高い目標を持たせるようにする。	3	4	①指導方法に関する問題から、一部の外部講師ゼミで多くの生徒からクレームがあがった。本来は生徒の実情を日頃からきちんと把握している本校教員がゼミも全て担当するべきだが、他業務(分掌業務や部活等)で余裕のない教員も多い。進路指導部だけで解決できる問題ではない。②講師の事前公表の要望が本年度もあつたが、開講講座発表の段階では受講生徒数が全体的に不確定/複数のクラスをまたいで1講座を設定、かつ1講座の人数を10〜40名に抑える等の制約があり、講師の事前公表は事実上不可能。これを可能とするためには100名程度収容できる大教室の複数確保/1講座の人数が少数でも開講し、赤字の補填手段を確保する等の対策が必要。これも進路指導部だけで解決できる問題ではない。ゼミに関する諸問題の根は深い。
	進学関連情報の積極的な発信	進路指導室の整備と資料(各大学の資料・進学情報誌・赤本等)のさらなる充実を図る。進路講演会やPTA研修会を通じて、現在の入試制度や本校の実情等についての情報を保護者に発信する。本校HPの資料アーカイブを活用し、主要国公立大学/私立大学のオープンキャンパス情報や各大学の一言PR等を随時アップし、受験校選択の参考に供する。	4		本校HPや各種講演会・研修会を通して、進路に関する情報は十分に発信することができた。資料アーカイブで随時更新した「水城生へのメッセージ(各大学入試担当者による大学紹介)」の閲覧数は年間約1800で何年並み。課題としては、HPで紹介する各大学のオープンキャンパス情報や各種進学相談会の件数が非常に多く(年間約250件)をそれでもかなり厳選している。掲載順にどんどん上積みされていくため、必要情報をタイムリーに引き出すことができない。アーカイブ上で何らかの 카테고리別に整理して提示することができないかどうか、次年度以降検討していく必要がある。
	自らの進路を自らの手で探求する姿勢の涵養	テレメール等の資料請求のツールや各種進学情報関連サイトを紹介し、生徒が上級学校について自らの手で調べることができるようにする。進路指導室に教員が常駐し、いつでも生徒に助言ができる体制を整える。	5		各種ツールや進学情報関連サイト等を生徒にきちんと提供することができた。進路指導室に教員が常駐する体制も整い、パンフレットや過去問、受験レポート(推薦入試等の面接や小論文の内容報告書)、過去の卒業生が作成した志望理由書等の写真等の各種資料もさらに充実。来室する生徒や教員のほとんどのニーズに対応できるようになっている。

評価基準 5:十分達成できている 4:達成できている 3:概ね達成できている 2:不十分である 1:達成できていない

保健環境部	・社会貢献への意識向上を深めさせる。	・ペットボトルのキャップ回収を行い、NPO法人世界の子どもにワクチンを 日本委員会へ寄与する。 ・3年生による赤十字血液センターへの協力をする。	4	4	3学年献血において、事前調査では194名の申し込みがあり、当日は153名の参加であった。例年と同様の数ではあるが、継続協力していきたい。
	・衛生活動、美化活動の充実。	・各委員会による校内施設の点検、不備報告の充実化。	5		週ごとに生徒達はしっかりと活動しているため、継続して行く。

渉外部	保護者がPTA活動に関心を持つようにする。	システム(お知らせメール・資料アーカイブ等)を活用し、PTA行事や活動についてアンケートをとったり、生徒の学校生活の様子やPTAの取り組みを伝えるなどして、保護者が学校を身近に感じ、進んでPTA活動に参加したくなるようにする。	4	4	校内のインターネット環境の大幅な向上により、保護者への諸連絡や案内・アンケート調査等が簡易かつスムーズになった。大部分が学校側から保護者側への一方通行の嫌いがあるが、これを双方向の意思疎通に発展させたい。
	開かれたPTAを目指す。	総会や常任委員会での出席率を高め、活発な意見の交換を促したり、生徒会役員と本部役員との話し合いを実施し、出てきた意見を検討したりして、学校改善に役立てる。	4		各委員会・学年・支部等多くの団体で活発な活動が行われた。本校のような極めて会員数の多い学校においては、多くの会員が様々な行事に参加することは大変ではあるが、限られた予算を有効、公平に多くの会員に還元できる企画・方法も再考する必要がある。
	役員選出が円滑にいくようにする。	PTA組織や学年・支部・専門委員会の活動等、PTAに関する情報をPTA会員に周知し、多くの会員が活動の主体となりたくなるような組織を目指す。また、必要に応じてPTA会則を見直し、役員の選出が単純、円滑にいくようにする。	4		インターネットを活用し、PTA役員選出に関するアンケート調査等を実施して幅広く候補者を募り、公平な役員選出を目指す。

生徒募集部	・志願者4000名を確保する	・大学合格実績、各部活動の実績をPRし、夏の学校見学会を成功させる。	2	3	中学校での成績が中位程の生徒へのPRを強化する
	・定員を満たす入学生を確保する	・単願入学者を増やすため、秋の入試説明会を成功させる。	4		入試説明会の充実、単願者を増やすために中三生はもとより、1、2年生、小学生へのPRも進める。
	・中学校、塾との関係を強化する。	・中学校、塾との関係を綿密なものとするため、中学校教員説明会、塾教員説明会、中学校学年説明会を抜き取りなく行う。	4		大規模塾のみならず様々な塾へのPR活動を充実させる

システム管理部	『すごい』システムを『当たり前』に提供する	システム開発関連 ・ゼミ受講受付・各種調査回答受付を『資料アーカイブ』と『お知らせメール本文』の両方から回答できるような新機能(受付システム)を構築・稼働する。 ・上の受付システム群の回答操作性の向上を不断に行い完成度を高めていく ・教員用PCの代替え(約100台)のための調査・調達・カスタマイズ・配布の各作業をスムーズに行う	5	5	次元の高いアクティブラーニング&ICT環境を構築する
		啓発関連 ・受付システム群の稼働に伴い生徒・保護者に『お知らせメール』へのアドレス登録を啓発する ・教員が受付システムを利用して各種調査やゼミ受講受付を行うように啓発する	5		

評価基準 5:十分達成できている 4:達成できている 3:概ね達成できている 2:不十分である 1:達成できていない

3. 学年

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	総合評価	次年度への課題
1学年	基本的な生活習慣を確立させ、目的を持った学校生活を送らせるとともに、集団生活を送る上で不可欠な規範意識を養う。	教員が始業前に早朝学習会などで生徒と教室で関わることで、不必要な遅刻をなくし生活のリズムを安定させる。朝や帰りのSHRを有効に活用し、水城高校の生徒としてのルールを粘り強くかつ丁寧に指導する。あわせて、部活動や学習など、放課後の時間も目的をもって過ごせるように指導する。	5	4	ほとんどの生徒が、年間を通して早朝学習に参加することができた。教員も早朝学習の指導に立ち会うことで、学習指導だけでなく、生徒とコミュニケーションをとることもできた。放課後も、部活やゼミ学習などの目標を与え、有意義な時間を過ごせるように心がけた。その結果、生徒指導面でも大きな問題もなく、落ち着いた1年間を送らせることができた。次年度も継続したいと考えている。
	将来、学びたい学門や就きたい職業に興味・関心を持たせ、学ぶ目的を理解させる。また、適切な文理選択ができるように指導する。	進路適性検査などの教材の活用し自分を見つめさせる。また、キャリアガイダンスや教育課程説明会、進路講演会などを通して、職業に就くための方法や文理選択について調べるきっかけをつくる。二者面談、三者面談、学級懇談などを通して、生徒・保護者・教員の共通理解を図る。	4		文理選択を含む進路指導に関しては、様々な行事などを計画的に実施することができた。ただ、教育課程説明会や進路講演会など、保護者の参加率が例年に比べやや少なく感じられた。行事の内容に関しては、満足してもらっていると思うが、案内の時期や方法など、次年度以降、できることがあれば改善したいと考えている。
	基本的な学習習慣の確立と、入試だけでなく将来にわたって役に立つ基礎学力の養成を目指す。	早朝学習会や放課後のゼミ学習を活用し学習時間を確保させる。各教科で連携をとり、計画的にゼミを受講させたり、長期休業中の課題に取り組みせたり、無理や無駄のない効率的な指導を行う。将来的には、自らが学習目標を設定できるように、二者面談などを通して指導する。	4		多くの生徒が、放課後や長期休業中のゼミ学習に積極的に参加することができた。長期休業中課題に関しても、コースの特色を活かし、無理のない有意義なものを提供できているように感じる。多くの教員が不定期に生徒との二者面談を行い、学習方法に関するアドバイスを行ってきた。必ずしも多くの生徒が、自ら目標を設定する段階には達していないが、学習意欲を失っている生徒は少ない。次年度も引き続き指導を継続し、生徒の力を遺憾なく発揮させたい。

2学年	学力について、各コースの上位層を増やすとともに、下位層の底上げを図る。	授業にしっかりと取り組ませるとともに、朝自習・学習会などを通じて学習時間の確保を図る。きめ細やかな個人面談を行い、ひとりひとりに合った学習方法を確立させる。	4	4	各コースが合格者を出すことを目標とする上位大学を志望校として設定し、努力する上位層の生徒を作り出すことはできたが、下位層に対する働きかけにおいては、十分に実を結ばない部分があった。
	進路について、より明確で具体的な目標設定を実現させる。	夏休みにオープンキャンパスへの参加を義務づけ、結果をレポートさせる。進路講演会、大学出張講義等の進路行事の内容充実を図る。進路指導について、教員自身が研鑽を積んだ上で、集会・面談を実施し、適切なアドバイスを与える。	4		学年としてキャンパスツアーを実施したり、担任と生徒の二者面談をまめに行うなどの努力をし、例年より進路意識の高さを伺うことができる部分もあるが、設定した目標の具体的な実現に向けて、不十分な部分がある。
	生徒指導上の問題行動をなくし、社会の一員として思いやりを持って他者に接することができる姿勢を育てる。	特にいじめやネット上のトラブルについて、様々な機会を捉え、啓発する。ハワイ修学旅行に取り組む中で、異文化理解・他者理解について深く学習させる。教員が、生徒の変化を見逃さずことなく、丁寧に対応する。	3		ハワイ修学旅行では、ひとりひとりが国際社会に生きる自覚を持って見事に行動することができたが、SNS上や実際のクラスで複数件のいじめがあり、克服されたものの、次年度への課題を残した。

3学年	・授業をとおして受験に対応できる確かな学力を身につけさせるとともに、生徒が自らの課題に対して主体的に学習に取り組む姿勢を確立させる。	・引き続き意欲的に授業に取り組ませると同時に、受験を意識した戦略的・効率的な学習方法・態度を習慣化させ、主体的に学習に取り組めるよう、ホームルーム、集会、面談をとおして指導・助言を行なう。	5	5	入学時から授業の大切さを継続して訴えてきたこともあり、全体的に落ち着いた授業態度で意欲的な取り組みが見られた。ホームルーム、集会、面談をとおして、主体的に学習に取り組む姿勢を演習し、受験勉強はもちろん、進路が決定した生徒も個々が目標を持って課題に取り組んでいた。
	・自身の進路について主体的に考えさせ、具体的に行動させることで、希望進路を実現させる。	・進路指導部と連携して進路説明会や集会を計画的に実施し、必要な情報を提供するとともに、数多く面談を実施し、個に応じた適切な指導や助言を与える。また、学年全体で受験に向かう雰囲気高め、生徒が切磋琢磨しながら受験勉強に取り組む環境を整える。	5		生徒・保護者に対する進路説明会や集会を計画的に実施し、受験についての情報提供を行うとともに、二者面談・三者面談をとおして具体的な助言を行ったことで、目標を高く設定しそれにむけて努力をする姿勢が見られた。全体で受験に向かう雰囲気も高められ、約580名がセンター試験を受験し、延べ400名が国立大学(一般入試)に受験した。
	・最高学年としての自覚を持たせ、道徳心をもった自律ある行動、美しいマナー・礼儀が自然に実践でき、社会や地域に貢献できるような態度を育成する。	・講話やホームルームでの注意はもちろん、教員自身の姿勢・態度や普段の声かけ等をおして、生徒が自主的に規律を守り、気持ちよい挨拶や徹底した清掃が自然に出来るような雰囲気を作る。規則やマナーを守れない生徒に対しても、見逃すことなく徹底的に指導し、全体の秩序を守らせる。	5		3年間の継続的な指導により、全体的に規律が守れており、今年度は謹慎処分を受ける生徒も出なかった。特定の生徒が服装・髪で指導されることがあったが、素直に指導に従い、改善が見られた。また、受験期であっても挨拶や清掃などもきちんと主体的に行い、明るく落ち着いた雰囲気でも過ごし、下級生の手本となった。卒業後もますます人間性を高め、地域・社会に貢献する人材として活躍してほしい。

評価基準 5:十分達成できている 4:達成できている 3:概ね達成できている 2:不十分である 1:達成できていない